

教育委員会の権限に属する事務の
管理及び執行の状況に係る点検・
評価に関する報告書
(令和4年度事業分)



令和5年8月
雲仙市教育委員会



雲仙市教育方針

雲仙市教育委員会は、広く市民の理解、協力、参画のもとに、「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進する。

このため、人間尊重の精神を基調として、生涯を通じて学び、郷土を愛し、郷土の自然・歴史・文化に誇りを持ち、国際社会に貢献できる調和のとれた個性豊かな人間の育成を図る。

特に、教育に携わる者は、その使命感に徹し、自らの識見を高めるとともに、深い教育愛とすぐれた指導力を身につけ、相和して本市教育の充実発展に努める。

雲仙市教育努力目標

- ふれあい、学びあい、認めあう生涯学習の推進
- 豊かな心と自ら学ぶ力をはぐくむ学校教育の実現
- 明るい社会をつくる人権・同和教育の推進
- 夢と希望をもち、たくましさ・やさしさを身につけた青少年の育成
- 郷土の豊かさをはぐくむ芸術・文化の振興
- 健康で明るく、たくましい心とからだをはぐくむ生涯スポーツの振興
- 国際性豊かな人づくりの推進

雲仙市教育のキーワード

やさしさに満ちた教育【人・地域・環境】

目 次

1. はじめに		P	1
2. 雲仙市教育委員会の活動状況		P	2～6
(1) 教育委員会の構成			
(2) 教育委員会及び教育委員の主な活動報告			
①教育委員会開催			
②教育長及び教育委員による学校、社会教育施設訪問			
③その他の活動			
3. 雲仙市教育振興基本計画主要施策体系図	..	P	7
4. 点検及び評価の概要		P	8
(1) 点検及び評価の対象			
(2) 点検・評価方法			
5. 「重点目標」の自己評価結果		P	8
6. 主要施策に係る点検評価シート			
重点目標1 子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します。			
		P	9～16
①確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育活動の充実			
②コミュニティスクール導入による教育活動充実			
③教職員研修充実と働き方改革推進			
④安全安心で快適な学習環境づくり			
⑤時代に即した情報教育環境の整備			
⑥教育相談、不登校児童生徒支援充実			
⑦いじめ対策の充実			
⑧各種就学支援事業の実施			

重点目標２．生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します。

…………… P 17～22

- ①多様な生涯学習プログラムの実施
- ②市民のニーズに応じた図書館・図書室運営の充実
- ③各種文化団体の活動支援
- ④地域に根差した青少年の健全育成の推進
- ⑤一人一人が認めあう人権意識の啓発
- ⑥学びの場としての社会教育施設の適正な管理運営

重点目標３．歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくり
を推進します。

…………… P 23～26

- ①郷土の歴史・文化の継承
- ②伝統的建造物群保存地区事業の推進
- ③開発事業に伴う埋蔵文化財の適切な保存活用
- ④市民団体と連携した文化芸術活動の推進

重点目標４．運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進
します。

…………… P 27～30

- ①運動・スポーツの日常化の推進
- ②スポーツ競技力向上とジュニアスポーツの推進
- ③社会体育施設の整備と民間活力の導入
- ④地域資源を生かしたスポーツツーリズムの推進

7．学識経験者の所見

…………… P 31～37

1. はじめに

雲仙市教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書を作成し、雲仙市議会に提出するとともに市民の皆様公表しています。これは平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されたことに伴い、同法第26条の規定に基づき平成19年度事業分から点検・評価を行うよう義務付けられたことによるものです。

雲仙市教育委員会では、市の教育方針である「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進するため、雲仙市教育方針や努力目標を掲げ、様々な取組を進めてまいりました。さらに平成28年4月に「雲仙市教育振興基本計画」を策定し、この計画を教育行政推進の基本と位置づけ、その目標達成に向け様々な施策を展開していることから、平成28年度分からは「雲仙市教育振興基本計画」における主要施策の進捗状況を対象として点検・評価を行い、併せて教育委員会の活動状況を報告しています。

また、点検・評価を行うに当たっては、同法第26条第2項により教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされており、学識経験者として元雲仙市立千々石第一小学校長 床井俊介 氏に所見をいただいております。

雲仙市教育委員会では、今回の点検・評価及び 床井俊介 氏の所見を基に教育委員会の活性化及び事務事業の推進など教育行政の担い手としての役割を発揮し、更なる教育の充実に努めてまいる所存です。

令和5年8月25日

雲仙市教育委員会

2. 雲仙市教育委員会の活動状況

雲仙市教育委員会の会議は毎月1回、定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会を開催し、施策や事業の効果的・効率的な実施や緊急な課題への適切な対応を図るための協議等を重ねています。

定例会教育委員会の会議以外の活動では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、総合教育会議（年2回）において教育行政の現状と課題などについて市長との協議を行いました。またコロナ禍の中で行動の制限はありましたが、その他の活動にも積極的に参加するなど、教育行政の中心的な役割を担い、教育施策の推進を図りました。

（1）教育委員会の構成（令和5年4月1日現在）

区別	氏 名	年 齢	任 期	
			任命年月日	満了年月日
教育長	大津 善信	60	令和 5 年 3 月 1 日	令和 8 年 2 月 2 8 日
教育委員 (教育長職務代理者)	駒田 義弘	67	令和 2 年 1 2 月 2 日	令和 6 年 1 2 月 1 日
教育委員	仁禮智加子	47	令和 元 年 1 2 月 2 日	令和 5 年 1 2 月 1 日
教育委員	永岡 悦子	62	令和 3 年 1 2 月 2 日	令和 7 年 1 2 月 1 日
教育委員	江川 儀平	66	令和 4 年 1 2 月 2 日	令和 8 年 1 2 月 1 日

（2）教育委員会及び教育委員の主な活動報告

①教育委員会開催

令和4年度は、定例会を12回、臨時会を2回開催し、教育長に委任された教育に関する事務の執行の状況を確認するとともに議案28件、報告事項10件について審議等を行いました。

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第1回 定例会 (4月25日)	報告	教育委員会事務局職員の人事異動について
	報告	雲仙市図書館協議会委員の委嘱について
	報告	雲仙市社会教育委員の委嘱について
	報告	雲仙市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第 1 回 定例会 (4 月 2 5 日)	議案	雲仙市図書館情報システム環境整備業務プロポーザル審査委員会設置要綱の制定について
第 2 回 定例会 (5 月 2 4 日)	報告	雲仙市教育支援委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市学校給食運営審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市文化会館運営審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市公民館運営審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市伝統的建造物群保存地区における環境物件の追加指定について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和 4 年度一般会計補正予算(第 2 号)について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和 4 年度一般会計補正予算(第 3 号)について)
第 3 回 定例会 (6 月 2 8 日)	議案	雲仙市奨学資金貸付審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市立小中学校学力調査業務プロポーザル審査委員会設置要綱の制定について
	議案	雲仙市立小中学校学力調査業務プロポーザル審査委員会委員の委嘱について
第 4 回 定例会 (7 月 2 2 日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和 4 年度一般会計補正予算(第 3 号)について)
第 5 回 定例会 (8 月 2 3 日)	議案	令和 3 年度事業分に関する「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書」の作成について
	議案	雲仙市みずほすこやかランド体育施設の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則について
	議案	雲仙市社会体育施設の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
第 6 回 定例会 (9 月 2 9 日)	議案	雲仙市立小・中学校共同実施室の設置並びに組織及び運営に関する規程の一部を改正する規程について
第 7 回 定例会 (1 0 月 2 7 日)	議案	雲仙市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について
	議案	雲仙市立中学校教員人事異動の内申について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第 8 回 定例会 (11月21日)	議案	議会に報告すべき議案についての意見の申し出について(専決処分した事件の報告について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(指定管理者の指定について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(指定管理者の指定について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(指定管理者の指定について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和4年度一般会計補正予算(第6号)について)
第 1 回 臨時会 (12月2日)	報告	雲仙市教育委員会の構成について
	報告	教育長職務代理者の選任について
第 9 回 定例会 (12月23日)	—	議事事項なし
第 1 0 回 定例会 (1月27日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和4年度一般会計補正予算(第7号)について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和5年度一般会計当初予算について)
第 1 1 回 定例会 (2月21日)	議案	令和5年度雲仙市立小・中学校教職員人事異動の内申について
第 2 回 臨時会 (3月1日)	報告	教育長の就任について
	報告	教育長職務代理者の指名について
第 1 2 回 定例会 (3月24日)	報告	教育委員会事務局職員の人事異動について
	議案	雲仙市教育支援委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市図書館協議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市社会教育関係団体等育成費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について

②教育長及び教育委員による学校、社会教育施設訪問

教育長及び教育委員は、市立小・中学校の学校経営及び学校施設等の整備状況を把握することで、学校教育への理解を深め、学校教育の振興を図ることを目的に、教育長及び教育委員による学校訪問を毎年行い、それぞれの学校の日々の取り組みや施設の状況を確認しています。また令和元年度からは、併せて社会教育施設等の視察も行っています。

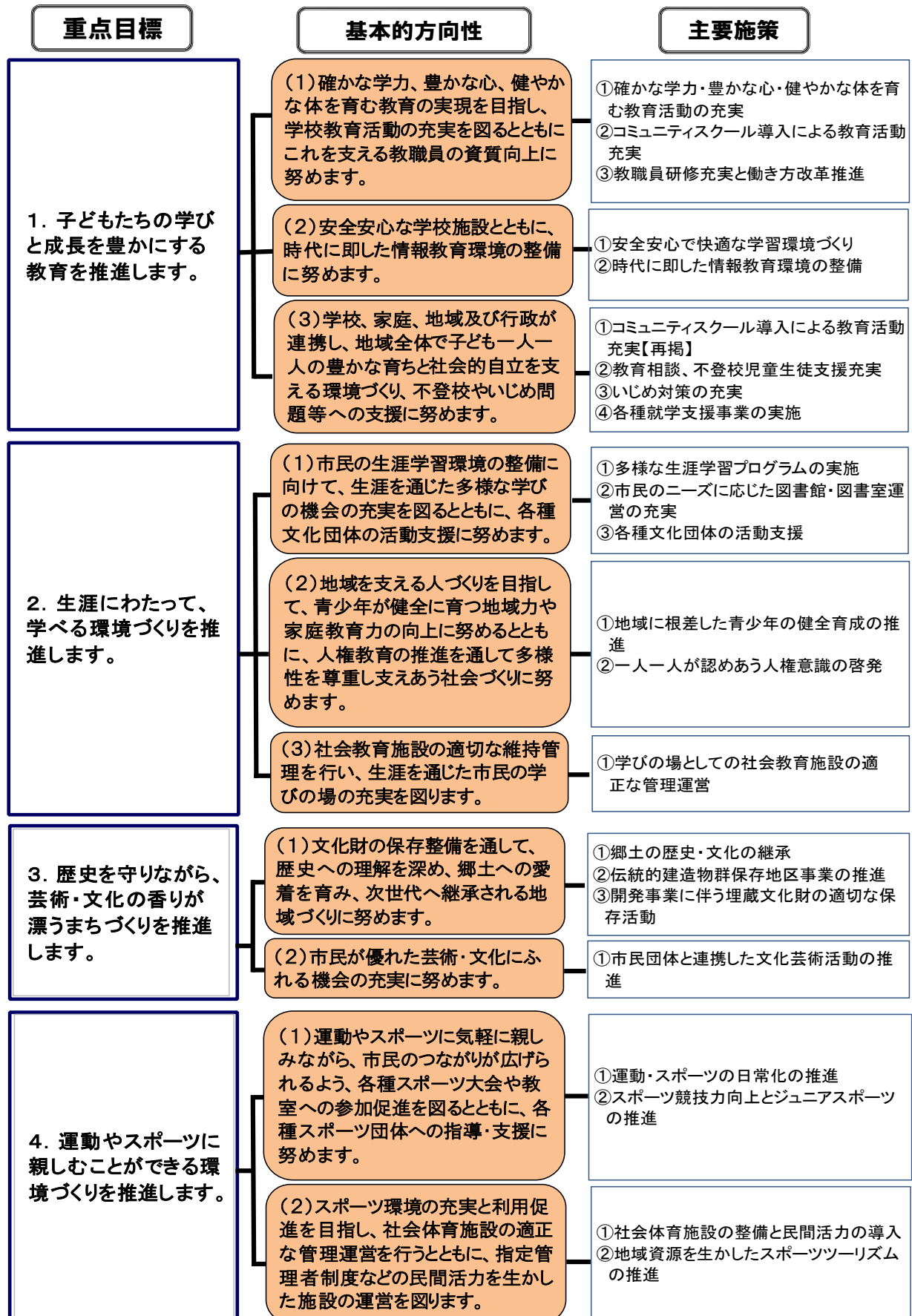
令和２年度及び令和３年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため社会教育施設等の視察も含めすべて中止といたしましたが、令和４年度は、小・中学校への学校訪問を再開しています。

③その他の活動

期 日	活動内容	備 考
令和４年 ４月 １日	新規採用・転入教職員（管理職）辞令交付式	
令和４年 ４月 ７日	市内中学校入学式	出席見送り
令和４年 ４月 ８日	市内小学校入学式	出席見送り
令和４年 ４月 ９日	雲仙市小浜体育館落成式	
令和４年 ４月 ２０日	長崎県市町村教育委員会連絡協議会理事会	WEB 会議
令和４年 ５月 １８日	長崎県市町村教育委員会連絡協議会総会及び研修会	佐世保市（中止）
令和４年 ５月 ３０日	長崎県市町教育委員会合同研修会	WEB 会議
令和４年 ６月 １１日 ６月 １２日	雲仙市中学校総合体育大会 球技・武道大会	出席見送り
令和４年 ６月 ２１日	雲仙市中学校総合体育大会 陸上競技大会	長崎県立総合運動公園 出席見送り
令和４年 ７月 ７日	学校訪問（西郷小学校）	
令和４年 ７月 ２８日	市町村教育長・教育委員研究協議会	WEB 会議
令和４年 ８月 １日	総合教育会議 議題「不登校児童生徒への支援の在り方について」	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく市長との協議

期 日	活動内容	備 考
令和4年 9月 8日	市町村教育長・教育委員研究協議会	WEB 会議
令和4年 9月 27日	学校訪問（小浜中学校）	
令和4年 10月 3日 ～ 24日	学校訪問 （土黒小学校ほか14校）	
令和4年 10月 31日 ～ 11月 1日	市町村教育委員会研究協議会 （第2ブロック）	
令和4年 11月 4日	長崎県民体育大会雲仙市結団 壮行式	大会は11月12日、13 日開催
令和4年 11月 7日	学校訪問（南串第二小学校、 千々石中学校）	
令和4年 11月	新任教育委員研修会	開催見送り
令和4年 11月	長崎県市町村教育委員会研究 大会	開催見送り
令和4年 11月 10日	雲仙市中学校総合体育大会 駅伝大会	長崎県立総合運動公園 出席見送り
令和4年 12月 2日	神代小学校研究発表会	
令和4年 12月 3日	雲仙市少年の主張大会	審査員長、審査員
令和5年 1月 4日	雲仙市二十歳のつどい	3会場分散開催
令和5年 1月 24日	市教委指定研究事業公開授業 （南串中学校 GIGA 研究公開 授業）	中止
令和5年 2月 2日	総合教育会議 議題「中学校部活動の地域移 行について」	「地方教育行政の組織及 び運営に関する法律」に基 づく市長との協議
令和5年 3月 4日	女子プロバスケットボール リーグ（W リーグ）	小浜体育館
令和5年 3月 14日	市内中学校卒業式	出席見送り
令和5年 3月 17日	市内小学校卒業式	出席見送り
令和5年 3月 31日	教職員退職者辞令交付式	

3. 雲仙市教育振興基本計画 主要施策体系図



4. 点検及び評価の概要

(1) 点検及び評価の対象

令和3年に策定した「第2期雲仙市教育振興基本計画」の基本方針に基づく個々の主要施策(Plan)を点検の対象とし、その取組状況(Do)を評価検証する(Check)とともに、その事業達成に向け課題を明確化することにより、次年度以降の取組の方向性を示す(Action)、PDCA サイクルによる事務事業の点検及び評価を行います。

(2) 点検・評価方法

事務の点検及び評価については、各主要施策の取組や達成状況を踏まえ、進捗状況を5段階（Aを5点～Eを1点）で示し、それを平均したものを「重点目標」の進捗状況としました。

「施策の方針」の評価区分	ランクの数値	主要施策ランク	
計画を上回って進捗	4.6 以上	A	5
計画どおり進捗	3.6～4.6 未満	B	4
一部課題はあるが概ね計画どおり進捗	2.6～3.6 未満	C	3
計画に全体的な遅れがある	1.6～2.6 未満	D	2
計画の多くが未達成又は見直しが必要	1.6 未満	E	1

※「施策の方針」の評価＝主要施策ごとの点検シートのランクの数値合計÷主要施策数

5. 「重点目標」の自己評価結果

雲仙市教育振興基本計画における22の主要施策の自己評価は、Aランクが0施策、Bランクが9施策、Cランクが13施策、Dランクが0施策、Eランクが0施策となっています。

また、各主要施策の取組や達成状況を踏まえた、「重点目標」の自己評価結果は、以下のとおりとなりました。

重 点 目 標	評 価 結 果	主要施策数
子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します。	B（平均3.6点）	8 施策
生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します。	C（平均3.3点）	6 施策
歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくりを推進します。	C（平均3.3点）	4 施策
運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。	C（平均3.3点）	4 施策

6. 主要施策に係る点検評価シート

重点目標 1 子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します。

点検評価シート

担当課 学校教育課

主要施策（１）－ ①		確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む 教育活動の充実
主な達成目標	- 各校の知・徳・体の調和のとれたカリキュラムマネジメントを充実させることにより、教育効果を高めます。 ■ 県学力調査 小学校（Ｒ２）県比 1.1～2.7→（Ｒ７）県平均以上を維持 中学校（Ｒ２）県比 -4.6～-0.1→（Ｒ７）県平均 ■ 学校運営調査（小学校英語）肯定的回答（Ｒ２）65.9%→（Ｒ７）80% ■ ４年生以上でタブレットを用いた在宅学習ができる児童生徒の割合（Ｒ２）0%→（Ｒ７）95%	
４年度の取組状況	○ 各種学力調査を実施し、結果分析を授業改善につなげることとしている。 Ｒ４県学力調査結果【小５・中２】（ ）は県平均正答率との差 小学校 国語 66.3（+1.7）算数 60.8（-0.1） 中学校 国語 54.3（±0）数学 66.0（+10.2）英語 55.3（+0.8） ○ 学校運営調査実施時に、「雲仙市追加調査」として「外国語活動・英語について」の調査を実施（小学校３年～６年を対象） 質問「あなたは、英語の学習が好きですか」についての回答 ①好き 52.9% ②どちらかといえば好き 33.0% ※肯定的回答 85.8% ○ 学習 e ポータルを導入し、全国学力・学習状況調査の過去の問題の一部を端末で解けるような環境を整備した。	
評価検証 及び課題	○ 小学校では、国語が県平均を上回った。算数においては県平均を下回ったが、わずか0.1ポイントの差であった。 ○ 中学校では、数学、英語において県平均を上回り、特に数学においては10.2ポイント上回った。 ○ 「英語の学習が好きですか」という問いに対して、肯定的回答の割合が全ての学年において昨年度より上回り、特に６年生においては、昨年度より18.2%も上回った。 ○ 雲仙市立小学校４年生以上の77.6%の児童がタブレットを用いた在宅学習を行った。そのうち72.1%の児童がオンラインでの学習を行った。 ○ 中学校においては、小学校よりもタブレットを用いた在宅学習が進んでいない。	
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 各種学力調査を軸としたマネジメントサイクルが確立されるよう、校長研修会、教頭研修会等において指導を行っていく。 ○ 自立した学習者育成のため、調べ学習なども含めたオンラインによる在宅学習について、校長研修会、教頭研修会等において指導を行っていく。	

主要施策（１）－ ② （３）－ ①		コミュニティスクール導入による教育活動 充実	
主な達成目標	・ コミュニティスクールの連携の核となる学校運営協議会の各校設置を推進します。 ■ 学校運営協議会設置校数（Ｒ２）１校→（Ｒ７）６校		
４年度の取組状況	○ 雲仙市コミュニティスクール導入年次計画に沿ったコミュニティスクールの導入推進 各小・中学校に、令和３年度に実施したコミュニティスクール導入の意向調査に基づき、各学校の意向を踏まえ、校長会等でコミュニティスクールについて説明するなどして導入を推進した。 ○ 令和５年度導入予定校への依頼及び説明 ・ 令和５年度…土黒小・神代小・大塚小・小浜小 で導入		
評価課題	○ コミュニティスクール導入に関する年次計画に基づき、令和５年度までに導入意向のある学校には、依頼及び説明を行い導入に向けた準備を進めている。 ○ 中学校におけるコミュニティスクール導入が進んでいない。		
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 概ね計画どおり進捗 B：計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある C：一部課題はあるが E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の取組	○ 令和６年度及び令和７年度の導入に向け、意向調査の結果を踏まえながら、未導入校への働きかけを行う。		

主要施策（１）－ ③		教職員研修充実と働き方改革推進
主な達成目標	・教職員の統合型校務支援システムＣ４ｔｈ活用能力を高め、時間外勤務を縮減します。 ■ 教職員の時間外勤務月平均４５時間超え勤務者数 （Ｒ１）小学校３２．６人・中学校５６．８人→（Ｒ７）小・中学校０人	
４年度の取組状況	○ 統合型校務支援システムの雲仙市運用ルールを令和３年度より適用開始 ・出退時刻管理、出席簿管理、成績管理、学校日誌・保健日誌作成等の機能活用による業務の効率化が各学校で進められた。 ○ 令和４年度時間外勤務月平均４５時間超え勤務者数 ・小学校０人、 中学校３３人	
評価課題	○ 統合型校務支援システムの本格運用に伴い、教育委員会への提出物削減につなげることができた。 ○ 時間外勤務縮減については、学校が行っている業務の見直し、年休取得の促進等を図り、効率的・効果的な教育活動を更に推進する必要がある。	
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 令和５年度においてもシステム運用による効率化を更に進めていく。 ○ 時間外勤務縮減については、統合型校務支援システムによる客観的な勤務時間の把握を継続し、教職員の意識改革を更に進めていく。	

主要施策（２）－ ①		安全安心で快適な学習環境づくり	
主な達成目標	・各学校施設の長寿命化計画に基づき、計画的な改修に努めます。 ・快適な学習環境づくりのため、トイレの洋式化を進めます。 ■ 学校のトイレ洋式化率（Ｒ２）３３．７％→（Ｒ７）４２．０％		
4年度の取組状況	○ 快適な学習環境づくり 安全で安心な教育環境を維持するために、施設の修繕及び改修工事等を行った。 【大規模改修事業】 ・校舎屋上防水の設計業務３件実施（多比良小学校、南串第一小学校、瑞穂中学校） 【単独整備事業】 ・小学校施設単独整備事業（１２９件：７１，８９４千円） ・中学校施設単独整備事業（３２件：１３，３５４千円） ○ 学校の教育環境改善及び防災機能強化 ①愛野小学校の教室不足を解消するため校舎の増築工事を行った。 ・愛野小学校校舎増築工事（建築主体工事・機械設備工事・電気設備工事） ３件：３９，４６１千円（現年分）、１１７，９８８千円（繰越分） ②防災機能の強化と安全安心な教育環境を整備するために、校舎や体育館の外壁及び建具の改修工事を行った。 ・西郷小学校校舎外壁・建具等改修工事（１３５，１００千円） ・吾妻中学校屋内運動場建具改修工事（７６，９３６千円） ・吾妻中学校校舎外壁改修工事（１０７，５７４千円令和５年度へ繰越） ※学校のトイレ洋式化率３５．８％（令和４年度末現在）		
評価及び課題	○ 防災機能強化については、国の学校施設環境改善交付金の採択を受け、西郷小学校と吾妻中学校（屋内運動場）の工事を計画通りに完了した。また、令和５年度に工事を計画していた吾妻中学校（校舎）を同交付金の前倒し採択を受け工事に着手した。 ○ 愛野小学校校舎増築工事は２か年契約の工事で、令和４年度に既存教室の改修工事を計画通りに行い事業を完了した。 ○ 建設から４０年を超える学校施設が多いことから、今後も維持していくためには、屋上防水や外壁などの改修を行う必要があること。また、トイレ洋式化などの改修にかかる予算の確保が目標達成に向けた今後の課題である。		
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の取組	○ 「快適な学習環境づくり」については、引き続き屋上防水改修工事等の大規模改修工事と単独整備事業を進め、教育環境の改善に努める。 ○ 「学校の防災機能強化」については、国庫補助及び起債の活用など財源を確保しながら外壁改修工事等に引き続き取り組んでいく。		

主要施策（２）－ ②		時代に即した情報教育環境の整備	
主な達成目標	・ 情報通信機器及びデジタル教材の計画的な更新及び充実と合わせ、通信環境の整備を行います。 ・ すべての教職員がＩＣＴ機器を活用した授業に積極的に取り組めるよう研修を進め、ＩＣＴ機器を用いた授業の円滑な実施を推進します。 ■ 授業中にＩＣＴを活用し指導できる教職員の割合 （Ｒ１） ７５．３％→（Ｒ７） ９５％ ・ 児童生徒の情報活用能力を向上させる授業に取り組みます。 ■ インターネットを使って情報を活用することができる児童・生徒の割合 「学校運営調査」小学５年生～中学３年生（Ｒ１） ６９．５％→（Ｒ７） ９０％		
４年度の取組状況	○ 時代に即した情報教育環境の整備 ・ 平成２６年度に導入した電子黒板の老朽化に伴い、新たに１４台を更新し小学校３校及び中学校１校の学習環境を整備した。 ・ 令和３年度に実施したローカルブレイクアウト（児童生徒数が多い学校における学習用回線の単独化。令和３年度は８校実施）に続いて、新たに３校を追加し、インターネットのアクセス集中による遅延の解消を図った。 ○ ＩＣＴ機器を活用した授業の推進 ・ 神代小、南串中をＲ４年度のＧＩＧＡスクール推進事業のモデル校とし、各校２回、授業を公開し、各学校から教職員が参加した。 ・ オンライン学習に役立つ学習者用ポータルサイト(L-Gate)の導入に伴い、教職員に対して、活用方法についてオンライン研修を実施した。 ○ 情報モラルセミナーの実施 ・ 市内全小・中学校から担当者が参加する研修会を実施し、情報モラル教育の推進を図った。		
評価課題	○ 電子黒板等のＩＣＴ機器については、平成２６年度頃から急速に導入が進み、近年老朽化による故障が相次いでいる。 ○ 令和４年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、授業中にＩＣＴを活用し指導できる教職員（肯定的解答）は、授業を実施する全教職員（管理職を除く）の 78.6%で、Ｒ３より 5 %上昇している。 ○ 情報活用に関する肯定的回答の割合が、５年生 83.1%、６年生 86.1%、中学１年生 83.3%、中学２年生 84.1%、中学３年生 90.8%であった。タブレット端末の利活用が増えたことで、肯定的な割合が伸びてきている。		
評価自己	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
降次の取組	○ 老朽化した電子黒板の更新を引き続き行うとともに、老朽化した校務用端末の更新にも着手する。 ○ 情報モラル教育の確実な実施と研修等の充実。		

主要施策（３）－ ②		教育相談、不登校児童生徒支援充実
主な達成目標	・ 不登校児童生徒一人一人の状況に応じて、学校復帰や将来の社会適応に向けた漏れの無い支援を行います。 ■ 支援を要する不登校児童生徒への訪問指導等 （Ｒ１）１００％→（Ｒ７）１００％を維持 ■ 訪問指導員が関わるケース会議・ケア会議 （Ｒ１）１５回→（Ｒ７）２０回	
４年度の取組状況	○ 「雲仙市児童生徒サポートセンター事業」説明 年度当初に、市内全小・中学校を訪問し、事業の説明を行い、訪問指導員の活動内容について周知した。 ○ 支援要請があった児童生徒への対応 学校訪問 ３３回 家庭訪問 ３２回 個別指導 ２７２回 電話相談 １回 来所相談 ２回 ※ 全ての支援要請に対応（１００％） ○ 訪問指導員が関わった会議の回数 ケース会議 ４回 ケア会議 ９回 計１３回実施	
評価課題	○ 全ての支援要請について、訪問指導員が対応することができた。 ○ ケース会議・ケア会議の回数が、予定を下回っているが、必要に応じて実施することができた。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 年度当初に市内小・中学校への事業説明を行い、周知を図る。 ○ 訪問指導員を２名に増員し、学校と連携をとりながら、訪問指導員の支援が必要な児童生徒について対応する。	

主要施策（３）－ ③		いじめ対策の充実							
主な達成目標	・ いじめの早期発見・早期対応により、いじめの深刻化を防ぎます。 ■ いじめ認知から３か月後の解消率 （Ｒ１）１００％ → （Ｒ７）１００％を維持								
４年度 の取組 状況	○ 毎学期末、「いじめの認知件数に関する調査」を実施 ・ いじめの認知件数 ３１７件 内、認知から３か月経過 ３０８件 ※令和５年３月３１日時点 <table><tr><td>①解消しているもの</td><td>３０８件（１００％）</td></tr><tr><td>②解消に向けて取組中</td><td>０件（３か月経過済）</td></tr><tr><td>③解消に向けて取組中</td><td>９件（３か月未経過）</td></tr></table> ○ 市内全小・中学校において、「雲仙市いじめ防止アンケート」を６月または７月に実施した。			①解消しているもの	３０８件（１００％）	②解消に向けて取組中	０件（３か月経過済）	③解消に向けて取組中	９件（３か月未経過）
①解消しているもの	３０８件（１００％）								
②解消に向けて取組中	０件（３か月経過済）								
③解消に向けて取組中	９件（３か月未経過）								
評価 及び 課題	○ 市内全小・中学校において、目標を達成した。								
自己 評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要							
次年度 以降 の取組	○ 市内全小・中学校において、「雲仙市いじめ防止アンケート」を６月または７月に実施し、早期発見・早期対応に有効に活用することで、いじめの深刻化を防ぐとともに、「いじめを許さない学校づくり」に資する。 ○ 毎学期末、「いじめの認知件数に関する調査」を実施し、いじめの発生状況を把握するとともに、早期解決に向けた対応について助言する。								

主要施策（３）－ ④		各種就学支援事業の実施	
主な達成目標	・ 事業内容に関する周知に努め、相談に親身に対応するとともに、保護者の困窮状況に早期に対応できるよう、申請から支給までの事務処理期間を短縮します。 ■ 随時申請にかかる申請受付から認定までの期間 （Ｒ１）２週間→（Ｒ７）１０日間		
４年度 の取組 状況	○ 経済的に困窮している家庭に確実かつ迅速に支援するために、広報や申請処理において学校や各総合支所、学校給食センター等と適切に連携するとともに、就学時健康診断や小・中学校入学説明会等の機会を利用して事業の周知に努めた。 また、児童生徒一人１台タブレットパソコンを活用した在宅学習に備え、就学援助事業による通信料等の支給項目を追加し、支給を開始した。 ○ 申請書受付から支給までの事務処理期間を短縮した。		
評価 課題	○ 広報等を利用し周知に努めたが、申請忘れの保護者もあり、今後も学校等との連携を図り困窮状況に早期に対応できるように努める。		
自己 評価	B	A：計画を上回って進捗 概ね計画どおり進捗 B：計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある C：一部課題はあるが E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降 の取組	○ 事業内容に関する周知に努め、相談に親身に対応するとともに、保護者の困窮状況に早期に対応できるよう、学校等と連携し事務処理に努める。		

重点目標２ 生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します。

点検評価シート

担当課 生涯学習課

主要施策（１）－ ①		多様な生涯学習プログラムの実施
主な達成目標	・ 地域課題や市民ニーズに即した様々な講座を企画します。 ■ 参加者数 (R1) 4,051人 → (R7) 4,500人 ■ 講座満足度アンケート (R1) 77% → (R7) 90%	
4年度の取組状況	【生涯学習環境の整備】 ○ 市民講座の実施 全186講座 ■ 参加者数 3,804人（延べ） 【対象別】 一般成人 100講座 …「おうちとアロマと私」ほか 小中学生 57講座 …「夏休みこども教室」ほか 幼児・親子 20講座 …「おもちゃドクターがやってくる」ほか 高齢者 9講座 …「シニア世代のためのスマホ教室」ほか ○ 広報活動 広報うんぜん、市ホームページ、自治会回覧「公民館だより」、無線放送等	
評価課題	○ 市民ニーズの把握と多様な講座の企画実施に努め、参加者の満足度も評価は高かった。新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が緩和されたこともあり講座の実施回数は回復傾向にあった。市民の満足度の高い講座の提供に努めることができたが、幅の広い年齢層へ向けた講座の企画も必要である。	
評価自己	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降の取組	○ 少子高齢化や家庭教育支援など、社会全体での取り組みが必要な地域課題に向き合うため、ネット配信による講座の企画を始め、公民館の「つどう・まなぶ・むすぶ」機能を十分に生かし、自治会や自治公民館と協力した地域課題解決型の講座を企画するなど、地域住民の主体的な学びの機会を提供していく。また、コロナ禍を経て、新たな生活、文化活動を市民へ提案できるよう講座の企画実施に努める。	

主要施策（１）－ ②		市民のニーズに応じた図書館・図書室運営の充実
主な達成目標	・図書館等の貸出利用サービス数の増加を図ります。 ■ 貸出冊数 (R1) 211,492冊→(R7) 220,000冊 ■ 1人当たり貸出冊数 (R1) 4.8冊→(R7) 5.5冊	
4年度 の取組 状況	○ 図書館等（図書館1館、図書室6室）の状況 ・蔵書冊数（視聴覚資料含む） 225,229冊 ■ 貸出冊数 198,945冊 ・利用者数 46,109人 ■ 1人当たりの貸出冊数 4.0冊 ・図書購入冊数 9,946冊 ・移動図書館巡回箇所 56カ所 ○ 令和4年3月に策定した第2次雲仙市読書活動推進計画における基本目標を「読書活動を活性化するための関係者の連携強化と年齢に応じた読書活動の支援」とし、実現するための取り組みを今後5年間の計画期間において進めていく。 ○ コロナ感染症対策を講じながら、読書推進イベントを開催し、読書活動の推進に努めた。 ○ 図書システムの更新を実施。ホームページで登録するとスマートフォンで利用カードが使用可能となり、館内検索システムで資料予約も可能となった。	
評価 及び 課題	○ スマートフォン等の普及により活字離れが進んでいることが推察される。蔵書の充実と情報発信に努め、各種企画を通じて読書に関する理解や関心を高めていく必要がある。	
評価 自己	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降 の 取 組 次 年 度 以 降	○ 利用者のニーズに応じた読書環境の整備に努める。 ○ 関係機関、図書ボランティア団体等と連携を深め地域ぐるみで読書活動を推進する体制づくりを進める。 ○ 市民が図書館、図書室を学びの場、自己研鑽の場として活用するために図書ボランティア、市民を対象とした研修会、イベント等を積極的に開催する。	

主要施策（１）－ ③		各種文化団体の活動支援	
主な達成目標	・ 雲仙市文化連盟を構成する各町文化協会及び雲仙市文化会館自主文化事業振興会を支援し、市民主体の文化活動の振興を図ります。 ■ 市内文化事業開催数 （Ｒ１） １５回→（Ｒ７） １６回 ■ 市内文化事業参加者数（Ｒ１） ４，６１２人→（Ｒ７） ７，０００人		
４年度の取組状況	■ 市内文化事業開催数 １４回 ■ 市内文化事業参加者数 ６，６６６人 ○ 市民主体の文化活動 市民の活発な芸術文化活動を推進するため、雲仙市文化連盟が中心となり、雲仙市民芸術祭、雲仙市美術展覧会、各町文化祭を開催した。 ・ 第１６回雲仙市民芸術祭 １１月２７日（日）（愛の夢未来センター）３１５人 ・ 第１７回雲仙市民美術展覧会 ２月２日（木）～５日（日）（小浜体育館）６８８人 ・ 各町文化祭（千々石町は展示部門のみ開催） ○ 雲仙市文化会館自主文化事業振興会主催事業 市民のニーズにあった文化芸術鑑賞の機会を充実させるため、雲仙市文化会館自主文化事業振興会による自主文化事業を開催した。 ・ 日本の芸能 ～賑～ ８月７日（日）（愛の夢未来センター）来場者２０２人 ・ 前田智洋ギターソロコンサート～昼下がりの午後を素敵な音楽で～ ９月２５日（日）（ハマユリックスホールロビー）来場者４６人 ・ 親子で楽しめるクラシックコンサート「音楽の絵本ダンディズム」 １１月１９日（土）（ハマユリックスホール）来場者２３９人 ・ 盲目ヴァイオリニスト穴澤雄介クリスマスコンサート及びアウトリーチコンサート １２月１７日（土）（愛の夢未来センター）来場者１２８人 ・ フィーリングアートバレエ公演 ３月１９日（日）（国見町文化会館）来場者１４８人		
評価課題	○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、客席の制限などを行い、例年と比較して来場者数も大きく減少した。 ○ 雲仙市文化連盟の組織強化や会員相互の交流活性化を引き続き図っていく必要がある。地域課題解決につながる文化事業や組織の在り方について検討していきたい。		
評価自己	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
降の取組	○ 自主文化事業をはじめ、雲仙市文化連盟による市民芸術祭や市美術展覧会を開催する。 ○ 雲仙市文化連盟、雲仙市文化会館自主文化事業振興会の、自立した組織の在り方を検討する。		

主要施策（２）－ ①		地域に根差した青少年の健全育成の推進
主な達成目標	・「雲仙市家庭教育 7 か条」の認知度アップに努めます。 ■ 保護者認知度 (R 2) 58.4%→(R 7) 80% ・小中学校入学説明会等で、メディア安全指導の指導講習会を開催します。 ■ メディア安全指導開催数 (R 1) 26回→(R 7) 30回	
4年度 の取組 状況	■ メディア安全指導開催数 22回 ○ 「雲仙市家庭教育 7 か条」「ココロねっこ運動」「家庭の日」の啓発、推進 ・イベント、大会での周知のほか、各町『公民館だより』による広報活動を行った。 ・家庭教育 7 か条のクリアファイルを新小学 1 年生児童の保護者へ配布し啓発活動を行った。 ○ メディア機器の安全使用に係る啓発 - メディア機器利用にかかる事件事故、健康被害等を未然に防ぎ、メディアを安全快適に活用する社会を形成するため、メディア安全指導を実施した。 ・市立小中学校の新入学児童生徒保護者説明会時にメディア安全講話開催 ・PTAなどを対象としたメディア安全講演会の実施 ・PTAと協働したメディア安全啓発にかかる市統一ルールリーフレットの配布	
評価 及び 課題	○ 「ココロねっこ運動」や「家庭の日」の啓発、推進については、広報紙での周知の他、公民館だよりに毎号掲載するなど周知に努めた。少年の主張大会は、中学生を出場対象とし実施した。家庭教育 7 か条啓発のためクリアファイルを幼稚園、保育園、新小学 1 年生へ配布した。 ○ メディア接触やメディア所持の低年齢化の現状を受け、子どもを取り巻くメディア環境への安全指導を実施した。今後は幼年期保護者も対象に広げ実施していく必要がある。	
自己 評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度 以降の 取組	○ 「雲仙市家庭教育 7 か条」等の周知啓発を、市報の「ぽかぽかフォトスナップ」連載等により取り組み、家庭及び地域の教育力を高める。 ○ 市PTA連合会と協力し、子どもたちのメディア機器へのかかわりに関する実態調査の結果を踏まえ、課題に即した啓発活動を行う。	

主要施策（２）－ ②		一人一人が認めあう人権意識の啓発	
主な達成目標	・ 多くの人が関心を持てるような講演会の実施や人権映画の上映、人権意識啓発チラシの配布等を行い、人権について考える機会を設けます。 ■ 人権講演会開催学校数（～Ｒ２） １９校→（～Ｒ７） ２４校 ■ 人権教育講座受講者数（Ｒ１） ２７人→（Ｒ７） ５０人		
４年度の取組状況	■ 人権講演会開催学校数 （～Ｒ３） ２３校 ■ 人権教育講座受講者数 １１人 ○ 令和４年度雲仙市人権講演会「瑞宝太鼓『夢大使』講演会」市内小中学校において、４講演を実施した。（市主催県補助金活用事業）（対象者：各校児童生徒、教職員、保護者等） ＜開催校、参加者、開催日＞ 瑞穂中学校 １３０名 令和４年１２月 ５日(月) 千々石中学校 １１８名 令和４年１２月 ５日(月) 国見中学校 ２９２名 令和４年１２月 ７日(水) 多比良小学校 １４８名 令和４年１２月 ８日(木) ○ 市民講座において、女性参画社会における人権をテーマに講座に取り組んだ。（３回）		
評価課題	○ 人権講演会では、講話、演奏、ワークショップを実施した。参加児童生徒からは、「いじめを受けることの辛い思いを知り、また、障がいがあってもいきいき生活し、活躍される様子から、夢を持ち努力することの大切さを感じている」「さらに理解を深め、人権尊重の実践につなげていく気持ちをもって、具体的な取り組み目標を作成している」との感想が寄せられ、障がいがある方への理解が深まっていることが確認できた。 ○ 本市を拠点に活躍する知的障がいを持つ和太鼓集団「瑞宝太鼓」を講師とした講演会の実施により、参加者がより身近に障害のある方への理解を深め、それぞれの立場で一生懸命取り組むことの大切さを感じさせることができた。 ○ 市民が関心を持ちやすい内容やテーマを考慮し、人権意識の啓発に取り組む必要がある。		
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の取組	○ 児童生徒を対象とした瑞宝太鼓夢大使講演会や市民講座における人権教育講座等を開催するほか、広報紙、ホームページ等で広く市民へ呼びかける。 ○ より多くの市民に人権意識の啓発を図ることを目的に、人権週間（１２月）にあわせて広報紙に特集を組むなど人権教育事業を行う。		

主要施策（３）－ ①		学びの場としての社会教育施設の適正な管理運営
主な達成目標	- 公共施設等総合管理計画個別施設計画に基づき、計画的な改修等を行います。 - Wi-Fi 環境を整備し、リモート学習の場を提供します。 ■ Wi-Fi 環境施設（Ｒ１）０施設→（Ｒ７）７施設	
４年度の取組状況	■ Wi-Fi 環境施設 ７施設 ■ 施設整備 - 旧瑞穂町公民館解体工事 工期 7/13～2/7 - 旧瑞穂町公民館解体工事監理業務 工期 7/5～3/1 - 旧瑞穂町公民館屋外トイレ新築工事 工期 8/5～12/16 - 旧瑞穂町公民館屋外トイレ新築工事監理業務 工期 8/8～1/4 - ハマユリックスホール舞台照明設備改修工事 工期 8/23～3/10 - ハマユリックスホール舞台照明設備改修工事監理業務 工期 8/16～3/28 - 国見町文化会館駐車場隣接地立木調査業務 工期 8/16～10/4	
評価課題	○ 所管する社会教育施設の老朽化に伴い、設備の大規模更新等を行った。所管する社会教育施設の老朽化が進み、大規模修繕が必要な個所が今後も想定されおり、中長期の計画的な整備を今後も図る必要がある。 ○ 個別施設計画に基づき、千々石町公民館の建て替えについて、今後早急に検討を進める必要がある。	
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
以降の取組	○ 国見町文化会館外壁・屋上防水改修工事 ○ 国見町文化会館外壁・屋上防水改修工事監理業務 ○ 国見町文化会館駐車場測量設計業務 ○ 瑞穂町公民館第２駐車場測量設計業務	

重点目標3 歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくりを推進します。

点検評価シート

担当課

生涯学習課

主要施策（１）－ ①		郷土の歴史・文化の継承
主な達成目標	- 指定文化財の保存と活用のため、貴重な資料の指定、登録を行います。 - 各種保存会との連携を図り、郷土芸能団体の継続的な活動を支援します。 - 郷土資料の調査整理を行うとともに、歴史講座の開催に努めます。 ■ 歴史講座数 （R1）2回→（R7）5回	
4年度の取組状況	- 市指定文化財の検討や、他市町の先進事例を学ぶため、文化財保護審議会を2回開催した。 - 雲仙市内のハタ揚げ文化を保存継承していくため、愛のまち剣舞箏保存会及び雲仙市吾妻町はた保存会と連携し、ハタ揚げの実施や地元の小中学校への指導を行った。また、両団体へ年間の活動謝礼金を支払った。 愛のまち剣舞箏保存会 50千円 雲仙市吾妻町はた保存会 50千円 - 郷土の歴史を学ぶため、地元に残る古文書を使った古文書講座を基本的に毎月実施している。また、市内で行われている発掘調査の成果を市民へ普及するため、市民講座を2回実施した。 古文書講座 11回 考古学講座 2回	
評価課題	- 文化財保護審議委員会を開催し、市内文化財の調査研究を行った。 - 郷土芸能については、ハタ文化のみ現在支援しており、その他郷土芸能について調査研究が必要である。 - 歴史講座については、積極的に取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも多く開催することができた。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次の年度以降の取組	- 市指定文化財の候補があり、指定に向けて文化財保護審議会と調査研究していく必要がある。 - 郷土芸能については、保存団体と連携し保存継承に努める。 - 歴史講座を開催し、市民に雲仙市の歴史や文化財の魅力の普及啓発を行う。	

主要施策（１）－ ②		伝統的建造物群保存地区事業の推進	
主な達成目標	・修理修景事業を推進し、伝統的まちなみ景観の整備を図ります。 ・地元自治会や地元NPO法人等と連携し、まちなみを活用した地域活性化に取り組みます。 ・旧鍋島家住宅の保存修理を進め、地域の核となる建物として活用を図ります。 ■ 鍋島邸入館者数（R1）6,133人→（R7）8,000人		
4年度の取組状況	■ 鍋島邸入館者数 4,775人 ○ 国費及び県費による補助を受け、長屋門の復元事業及び修理修景事業を実施した。（間接事業） ○ 鍋島邸板塀等の修理による施設の保存修理を行った。 ○ 庭園の樹木の剪定等による管理、樹勢の衰えた樹木の回復措置を行い、庭園の適正な維持管理を行った。 ○ 地元団体と連携し、オカリナコンサート、まち歩きイベントを開催するとともに、民間団体が実施したイベントに協力した。		
評価及び課題	○ 伝建事業については、文化庁及び県学芸文化課の指導を受けながら、補助事業を活用した修理修景事業を実施することができた。 ○ 旧鍋島家住宅の老朽化が進行しており、今後、全体的な修理を行う必要がある。 ○ 新型コロナウイルスの影響により今年度も「緋寒桜の郷まつり」が中止となったものの、鍋島邸の入館者は戻りつつあると思われる。		
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の取組	○ 引き続き、国、県の補助金を活用した修理修景事業を実施する。 ○ 旧鍋島家住宅の修理に向けた協議を行う。 ○ 地元団体と連携したイベントを開催する。		

主要施策（１）－ ③		開発事業に伴う埋蔵文化財の適切な保存活用	
主な 目標 達成	・市内各種開発事業に伴う発掘調査事業を実施します。 ・雲仙市歴史資料館における発掘調査成果の公開と活用を図ります。 ■ 国見展示館入館者数（Ｒ１）１，０１８人→（Ｒ７）１，５００人		
4 年 度 の 取 組 状 況	○ 国見地区基盤整備事業に伴う中高野遺跡及び内屋敷遺跡の発掘調査（4,850 ㎡） 基盤整備事業に伴う工事により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。 ・縄文時代の土器石器が発見された。また、古墳時代の竪穴住居跡や中世頃の墓と考えられる遺構が発見され、長期間にわたり集落が存在していた様子が判明した。 ○ 吾妻地区基盤整備事業に発掘調査（出土品整理作業） 基盤整備事業に伴う発掘調査による出土品の整理作業を行った。 ・これまでに、古墳時代の勾玉や鉄製品、祭祀用の土器などが発見されている。 ○ 愛野地区基盤整備事業に伴う発掘調査（出土品整理作業） 基盤整備事業に伴う発掘調査による出土品の整理作業を行った。 ・これまでに、旧石器時代の石器や弥生時代の環濠集落が発見されている。 ○ 南串山地区基盤整備事業に伴う登建峠遺跡発掘調査（出土品整理作業） 基盤整備事業に伴う発掘調査による出土品の整理作業を行った。 ・これまでに、縄文時代晩期の土器、石器が数多く発見された。 ○ 市内遺跡発掘調査 市内の各種開発事業に伴い遺跡の内容確認（試掘）調査を実施した。（１３件） ・調査の結果に合わせて、文化財の保護を講じるよう指導を行った。 ○ 守山大塚古墳レーザ計測調査 ・県内最古最大級の前方後円墳である、吾妻町守山大塚古墳の保護のため、３次元計測調査を実施した。古墳の詳細な地形を確認することができた。 ○ 国見展示館企画展等 ・「下田泰義先生寄贈品展２」「おばまの民話 原画展」 １７９人 ・夏休み講座 まが玉づくり １地域 ２回 ２０人 ・社会科見学 小中学校 ４校 ８７人 ■ 国見展示館入館者数 Ｒ４実績１，３３０人		
及 び 課 題 評 価 検 証	○ 県営基盤整備事業に伴う発掘調査については計画どおり進めることができた。今後も整備事業が計画されており、関係各所と連携し、埋蔵文化財の保護に取り組む必要がある。また、現地説明会を実施し調査成果を公表することができた。 ○ 守山大塚古墳レーザ計測調査により、現状の詳細な古墳の形状を確認できた。 ○ 発掘調査成果の企画展等計画し、今後も市内文化財の周知を図っていく必要がある。		
評 価 自 己	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
降 次 年 度 の 取 組	○ 開発に伴う発掘調査及び報告書作成、現地説明会等を行い、調査成果の活用を図る。 ○ 国見展示館等での企画展等を通して、調査成果の周知と歴史学習に寄与する。 ○ 文化財保護啓発冊子の作成を行い、文化財保護に取り組む。		

主要施策（２）－ ①		市民団体と連携した文化芸術活動の推進
主な達成目標	- 子どもを対象とした文化芸術体験事業及びアウトリーチ事業を開催します。 - 市内文化会館自主事業において、参加者の増加を図ります。 ■ 自主事業数 (R1) 9回→(R7) 10回 ■ 自主事業参加者数 (R1) 2,891人→(R7) 3,000人	
4年度の取組状況	■ 自主事業数 5回 ■ 自主事業参加者数 763人 ○ 子どもを対象とした文化芸術体験事業（文化庁補助事業） 文化芸術による子供育成推進事業（巡回公演事業）を開催した。 ・西郷小学校 11月30日(水) 伝統芸能 参加者 123人 ○ 雲仙市文化会館自主文化事業振興会主催事業 市民のニーズにあった文化芸術鑑賞の機会を充実させるため、雲仙市文化会館自主文化事業振興会による自主文化事業を開催した。 ・日本の芸能 ～賑～ 8月7日(日)（愛の夢未来センター）来場者202人 ・前田智洋ギターソロコンサート～昼下がりの午後を素敵な音楽で～ 9月25日(日)（ハマユリックスホールロビー）来場者46人 ・親子で楽しめるクラシックコンサート「音楽の絵本ダンディズム」 11月19日(土)（ハマユリックスホール）来場者239人 ・盲目ヴァイオリニスト穴澤雄介クリスマスコンサート及びアウトリーチコンサート 12月17日（土）（愛の夢未来センター）来場者128人 ・フィーリングアートバレエ公演 3月19日(日)（国見町文化会館）来場者148人	
評価課題	○ 「文化芸術による子供育成推進事業」を活用し、子どもたちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供した。 ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、客席の制限などにより、例年と比較して来場者数も減少した。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 市民のニーズを反映した自主文化事業を開催する。 ○ 雲仙市文化会館自主文化事業振興会の自立した組織のあり方を検討する。	

重点目標４ 運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

点検評価シート

担当課 スポーツ振興課

主要施策（１）－ ①		運動・スポーツの日常化の推進
主な達成目標	・レクリエーション協会、総合型地域スポーツクラブの加盟団体及び会員数を増やし、市民の軽スポーツ人口の拡大のための支援を行います。 ■ レクリエーション協会加盟団体（Ｒ２）５団体→（Ｒ７）６団体 ■ 総合型地域スポーツクラブの会員数（Ｒ２）１７６人→（Ｒ７）２００人 ・雲仙市スポーツ協会等と連携してスポーツ教室を開催し、市民及びスポーツが苦手な小学生に対し、スポーツに親しむ機会を拡大させます。 ■ スポーツ団体が主催する教室（Ｒ２）２教室→（Ｒ７）３教室	
４年度の取組状況	○ 軽スポーツ団体の支援 雲仙市レクリエーション協会及びがまだすスポーツクラブの活動の指導・支援を行い、組織の拡充・活動の充実を図った。 【雲仙市レクリエーション協会】・構成団体数：５団体 構成人数：１７２人 【がまだすスポーツクラブ】・会員数：１４９名（種目数：４） ○ スポーツ教室等の実施 市民に対し、運動機会の提供・紹介のための軽スポーツ等の教室を実施した。 ・柔道教室の開催（延べ参加人数：１３２名） ・ヘルスアップスクールの開催（延べ参加人数：１３５名） ・水泳教室の開催（企画・募集まで行い、参加者まで決定したが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止） ○ 体力測定会の実施 市民に対し、自分の体力年齢などを知る機会として、体力測定会を実施した。 (参加人数：３３名) ○ 市民ラジオ体操会の実施 市内７会場（７町）一斉にラジオ体操会を実施した。（参加人数：４８３名） ※スポーツ施設年間利用者数 Ｒ４：３４３,７０７人	
評価課題	○ 軽スポーツ団体の支援については、新型コロナウイルス感染症の影響も心配されたが、イベント等への参加者も多く、日常的にスポーツに取り組む人が増加しており、計画どおり進捗している。 ○ スポーツ教室等については、柔道教室、ヘルスアップスクールを開催し、市民がスポーツに親しむ機会の提供ができた。	
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
次年度以降の取組	○ 一般市民が多く参加できる軽スポーツ大会等の取組を行う。 ○ 市民運動会については、令和５年度開催となっていることから、関係機関等と連携を図り、内容等の検討を行う。 ○ ラジオ体操の推進については、引き続き市民ラジオ体操会を開催するとともに各種大会や企業などでラジオ体操を取り入れるよう推進を行う。	

主要施策（１）－ ②		スポーツ競技力向上とジュニアスポーツの推進
主な達成目標	・スポーツ協会と連携し市民の競技力向上と競技人口の拡大を図ります。 ■ スポーツ協会加盟団体数（Ｒ２）１９団体→（Ｒ７）２１団体 ■ 小学生クラブ活動振興会加盟団体数（Ｒ２）５１団体→（Ｒ７）５４団体 ・ジュニアスポーツの推進については、健康な身体づくりを推進しながら、練習時間及び休養日の設定を遵守させ、過重な指導の防止を図ります。 ■ 少年スポーツの現状に合った講習会の開催（Ｒ２）１回→（Ｒ７）１回	
４年度の取組状況	○ スポーツ協会の運営支援 市民スポーツ大会をはじめとする市民の各種競技会の開催、競技力向上や競技人口の拡大のための講習会や教室を行う雲仙市スポーツ協会の活動支援を行った。 スポーツ協会加盟団体 １９競技団体（１,４３２人） 補助金 １４,４９２千円 ・市民スポーツ大会開催支援 １１競技（９３６人） 補助金 １,０１９千円 （新型コロナウイルス感染拡大防止及び台風接近のため実施されない種目あり。） ・Ｒ４.１１ 県民体育大会へ出場に係る経費の一部を助成 １８競技 ４４２人 （新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施されない種目あり。） ○ 補助金等による経済的支援 優秀な成績で上位大会へ出場する選手や団体に対し経費の一部を助成し、負担の軽減と向上意識の高揚を図った。 ・激励費の交付 件数：１６８件（延べ８０５人）４,７８６千円 ○ 振興会等団体に対する活動・運営支援 少年期における健康な身体づくりと、将来のスポーツ活動への意欲を育むため、小学生クラブ活動振興会に対し、運営のための経費の一部を助成して、その活動を支援した。 団体数：４９クラブ 構成部員数：６２９人 補助金 ２,０８７千円	
評価検証 及び課題	○ スポーツ協会の運営支援については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部中止の競技もあったが、各種大会を開催することができた。 ○ 補助金等による経済的支援については、新型コロナウイルスの影響により上位大会が開催されない競技もあったが、昨年と比べ、交付件数は増加しており、計画どおり進捗している。 ○ 振興会等団体に対する活動・運営支援については、各団体に対して運営のための経費の一部を助成して活動の支援を行った。	
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
以降の取組	○ スポーツ協会の運営支援を行うとともに、各競技団体の構成員数が減少傾向にあることから、各競技団体が行う大会及び教室開催等の活動を支援し、スポーツ人口の増加を図る。 ○ 競技力の向上並びに優秀選手を育成するために、ジュニアスポーツの推進とスポーツ協会各競技団体等の競技力向上の連携を図りながら、経済的支援を行う。	

主要施策（２）－ ①		社会体育施設の整備と民間活力の導入
主な達成目標	- 社会体育施設（設備・備品）の適正な管理運営については、定期的に安全点検を実施し、必要があれば交換、修繕等を迅速に行い使用者が快適に利用できる環境を確保します。 ■ 定期的な点検（Ｒ２）不定期→（Ｒ７）６回／年（１回／２ヶ月） - 適切な利用のための予約制度システムを導入します。 ■ 予約制度システム（Ｒ２）未導入→（Ｒ７）導入完了 - 指定管理制度による民間活力の導入に向けて調査・研究を進めます。 ■ 指定管理施設（Ｒ２）２施設→（Ｒ７）３施設	
４年度の取組状況	○ 社会体育施設（設備・備品）の点検等 社会体育施設の点検等を随時行い、不良な箇所の修繕等を行った。 ○ 予約制度システムの導入 令和３年度に社会体育施設のウェブ予約システムを導入し運用している。 ○ 指定管理者制度による民間活力の導入 施設をより快適に活用できるよう、また、より高度なサービスが提供できるよう、施設の運営に民間企業のノウハウ等を導入する指定管理者による施設運営を進めた。 【国見総合運動公園（遊学の里くにみ）】 指定管理者：特定非営利活動法人長崎スポーツコミュニティ 指定管理契約期間：平成３１年４月１日～令和５年３月３１日 指定管理料：３２，０００千円 【リフレッシュセンターおばま】 指定管理者：株式会社サンセットマリン雲仙 指定管理契約期間：令和２年４月１日～令和５年３月３１日 指定管理料：２３，３００千円 ※スポーツ施設年間利用者数 Ｒ４：３４３，７０７人	
評価課題	○ 社会体育施設のウェブ予約システムについて、利用者の更なる利便性の向上に取り組む必要がある。 ○ 国見総合運動公園及びリフレッシュセンターおばまについては、民間ノウハウ等の導入により、安定的に施設利用ができるよう施設運営を行った。	
評価自己	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要
降次の取組	○ 社会体育施設ウェブ予約システムについて、利用者の更なる利便性の向上を目指し、よりよいシステムとなるよう改善を行う。 ○ 物価高及び電気代の高騰並びに流動的な新型コロナの影響も考えられるが、国見総合運動公園及びリフレッシュセンターおばまについては、民間ノウハウ等の導入により、指定管理者とも連携を図りながら、安定した施設利用ができるよう施設運営を行っていく。また各施設について老朽化が進んでいるため、人口減少社会に見合った、スケールメリット及び経済性に基づいた統廃合及び民間活力の導入ができないか検討を行う。	

主要施策（２）－ ②		地域資源を生かしたスポーツツーリズムの推進	
主な達成目標	・スポーツ合宿の誘致に努めます。 ■ スポーツ合宿の誘致（Ｒ２）０団体→（Ｒ７）年間２団体 ・平日のスポーツ大会の誘致に努めます。 ■ 平日のスポーツ大会の誘致（Ｒ２）０大会→（Ｒ７）年間２大会 ・スポーツ大会並びに障害者スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致及び平日のスポーツ大会の誘致を行いながら、観光関係団体等と連携を図り、市民が「支える」スポーツ環境を整備します。		
４年度の取組状況	○ スポーツ合宿の誘致 ・小浜体育館の供用開始に合わせ、３団体の合宿を誘致していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により合宿の実施ができなかった。 ・スポーツツーリズム及び大会誘致の取組として、令和４年４月に市と協定を締結した九州大学バスケットボール連盟の大会を始め、プロの女子バスケットボールの公式戦や卓球、バレーボール、ボッチャなどの大会を開催することができた。 ○ 平日のスポーツ大会の誘致 ・平日のスポーツ大会の誘致に努めたが、大会の誘致まで繋げることができなかった。 ○ 観光関係団体等と連携を図り、市民が「支える」スポーツ環境の整備 ・九州大学バスケットボール連盟の大会が修学旅行や行楽シーズン等と重なり、大会期間中の配宿について観光関係団体等との連携不足があった。		
評価検証及び課題	○ 小浜体育館の供用開始に合わせ、誘致活動を行った。金曜日から日曜日の大会誘致は行えたが、平日のみの大会誘致はできなかったため、競技別にターゲットを絞り誘致する必要がある。 ○ スポーツツーリズムの推進にかかる機運の醸成を図るために、観光関係団体との意見交換等を行う必要がある。		
評価自己	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画に全体的な遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
降の取組	○ これまでに誘致したスポーツ大会や合宿について、観光関係団体と連携を図り、「市民が支えるスポーツ環境」と「機運の醸成」を図る。 ○ 競技別（卓球、バドミントン等）にターゲットを絞り、平日のスポーツ大会の誘致を行う。 ○ 令和５年度中に令和６年度のスポーツ大会や合宿の誘致に努める。		

7. 学識経験者の所見

(1) 点検・評価に対する総評

本市教育行政推進の基本計画として策定された「第2期（令和3年度～令和7年度）雲仙市教育振興基本計画」。本年度はその5か年計画の2年目である。

コロナ禍の中にあって、修正等を余儀なくされながらも工夫して推進された初年度の取組の点検・評価を行い本年度の取組へとつなげていくPDCAサイクルの定着と、市ホームページにおいて、その評価・検証の具体と課題・数値目標を積極的に取り入れた達成目標に照らし合わせての自己評価と次年度以降の取組の方向性、更に定例教育委員会議事録等を積極的に市民に公開するという開かれた行政が実施されていることをまずもって評価したい。

年2回の総合教育会議においても、「不登校児童生徒への支援」「部活動の地域移行」といった喫緊の課題に対して議論されている。

自己評価の結果においては、初年度の取組に対して1つの主要施策において低下（B→C）してはいるものの、4つの主要施策において初年度から1ステップ高くなっている。22の主要施策すべてがC評価以上であり、概ね計画通りの進捗状況である。初年度に引き続きのコロナ禍の中にあって、各課の工夫された取組の成果であると思われる。

また、教育長や教育委員による学校・社会教育施設訪問が再開実施され、現場の具体的な課題やその支援策等についてより具体的で活発な意見交換がなされていることに敬意を表したい。

令和5年度は、国の第3期教育振興基本計画（平成30年度～令和4年度）が改訂される年度である。長崎県の第3期教育振興基本計画（令和元年度～令和5年度）も最終年度を迎える。本市教育振興基本計画についても、国や県の振興計画を参酌しながらの修正等が必要になってくるものと思われる。VUCA（ブーカ）の時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）、コロナ禍の中、急速に進んだDX（デジタルトランスフォーメーション）※1・多様な教育ニーズへの対応、退職年齢の引き上げによる生産年齢の変化等、時代の急激な変化に即した「変化対応力」が教育行政にも求められている。また、引き続き「情報弱者」等に配慮した取り残しのないきめ細やかな取組が期待されるところである。

令和5年度には「こども家庭庁」が発足し、「こども基本法」も施行される。今後、福祉や観光部門を始めとする他課とのより一層の連携による横断的で長期的・全市的な視野に立った「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」に期待したい。

(2) 「重点目標」に係る個別ごとの評価

重点目標 1「子どもたちの学びと成長を豊かにする教育を推進します」 について

主要施策 1

市研究指定事業や学校訪問を通じた授業改善への意識の高まり、市独自の学力調査の実施等によるマネジメントサイクルの充実により、県学力調査において小・中学校ともに県平均並、またそれ以上を達成している。特に、今回、中学校英語において県平均以上を達成できたことは大きな成果であると考え。 「外国語活動・英語についての意識調査」において、学年が上がるごとに肯定的回答の割合が下降していた昨年度の結果に対して特に6年生が大きく改善されたことに関しては、より細かい検証による成果の共有が大切になるものと考え。

中学校においてタブレットを用いた在宅学習が進んでいないのは、教科担任制の特質によるところが大きいと思われるが、「持ち帰って在宅学習を行う」から、「在宅学習ができる(学習習慣の確立、情報リテラシーを含む)」児童生徒の割合の向上へとつなげていただきたい。

コミュニティスクール導入に向けて年次計画に基づき着実に推進されている。学校を核とした「人づくり・ふるさとづくり」への期待は大きいですが、学校の過重負担にならないように、関係各課との連携による既存の組織を生かした段階的な地域学校協働本部の設置及び活動推進委員の育成等に配慮いただきたい。「人づくりと誇りあるふるさとづくり」の推進に向け、更にキャリア教育の観点からも中学校区を基本とした学校運営協議会の設置が望まれるところである。

学校現場における労働環境のブラック化が大きく注目されている。県内でも先駆けて運用を開始した統合型校務支援システムによる学校職員の勤務時間の客観的把握と学校から教育委員会への提出物削減は働き方改革において一定の成果がみられているが、令和5年度からの国の第4期教育振興基本計画の中で「子供たちのウェルビーイング※2を高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが重要である」と指摘されているように、特に生徒指導や保護者対応等の学校職員の精神的な負担に寄り添った支援(医療・保健、福祉、司法、警察等との積極的な連携を含む)と根本的な業務内容の見直しについて引き続き推進していただきたい。

主要施策 2

経年劣化に伴う学校施設の修繕・改修は安全安心な環境づくりに向けて第一義であり、今年度も計画的に推進されたことは大いに評価されるところで

ある。時代の変化や社会環境・自然環境の変化に伴い「安全安心」に対する意識や配慮事項も多様になってきている。そのような中、今年度は「防犯」面からの課題が顕在化した。「開かれた教育との兼ね合い」「地域の生活道となっている学校施設」等課題はあるが、児童生徒の安全安心を考え、財源の確保と優先すべき課題を明確にした学習環境の確保に努めていただきたい。

1人1台のタブレット端末が前倒しで導入された中、限られた予算の中で、ローカルブレイクアウト※3等によるインターネット環境の整備、学習者用ポータルサイトの導入等情報教育環境の整備を積極的に進められたことは大きく評価される場所である。情報機器の効率的な活用にはハード面に加えて、指導者が活用しやすいソフト面での充実も欠かせない。また、情報機器の進歩は著しく、今後もメンテナンスを含めタブレットの入替等、更に長期的・計画的な運用が必要になると思われる。「情報モラル・情報リテラシー」教育については、特に保護者をも含めた取組が必要であると考えている。

主要施策3

不登校児童生徒については、保護者の価値観の多様化等も含め様々な要因が考えられるが、「雲仙市児童生徒サポートセンター事業」による学校訪問・家庭訪問・個別指導等の充実により、改善、学校復帰がなされている例もあり、学習機会の保証や居場所づくり、学校・保護者支援の面からも大きな成果が挙げられている。サポートセンターの取組やその成果についてより具体的に周知を図り、支援を継続してほしい。次年度に向けた訪問指導員の増員はこれまでの取組の有用性を示しているものと考えている。

「いじめはある」という認識のもと市全体で「いじめ防止アンケート」の計画的実施を行い、「いじめを見逃さない」「深刻化を防ぎ、解消を目指す」という姿勢で積極的に「いじめ認知」を実施していることが「解消率100%」につながっているものと評価する。

不登校やいじめ対策においては、児童虐待・ヤングケアラー・貧困・メディア依存・メンタルヘルス等、子供たちが抱える困難が多様化・複雑化している中、医療・保健、福祉、司法、警察等との積極的な連携も不可欠であり、より一層の支援体制の確立に努めていただきたい。

就学援助事業における通信料等の支給項目の追加や事務処理期間の短縮に努め、改善が図られている。貧困による教育格差が更に貧困の連鎖につながる(情報弱者になりやすいことによる各種援助事業の不周知等)という側面もあり、より一層事業の周知に努めていただきたい。

重点目標2「生涯にわたって、学べる環境づくりを推進します」について

主要施策1

引き続きのコロナ禍の中ではあったが、「市民ニーズに即して」企画や環境整備を実施するよう心掛け、「学び続ける環境づくり」に努めておられることを高く評価したい。なされているとは思われるが、実施された講座個々の満足度に関するデータの分析(どのような講座の満足度が高いのか、課題は何か等)についての評価・検証が次年度の取組につながるものとする。

図書システムの更新による利用者の利便性向上は高く評価されるところである。「読書」の方法についても、近年、電子書籍、ネット配信による聞く読書等多様化している。図書館を「読書する場」に加え「学びの場」「集いの場」「情報発信の場」等、時代の変化に対応して活用していくことが「学び続ける環境づくり」につながっていくものとする。

各種文化団体への活動支援により各種文化事業が開催され、多くの市民が参加された。今後、継続のためには、「人づくり」「人と人をつなぐシステムづくり」が欠かせない。地域の人材発掘・活用、既存の文化団体・ボランティア団体等の支援とともに、新たな学びの仲間づくりにつながる研修やイベント等に期待する。

コロナ禍及び急速な情報化社会の進展の中で、学びの場が公民館や図書館・講演会等から動画配信サイト等に移行していることが推察される。「人づくり」「つなぐ」「ふるさと」等をキーワードに動画配信サイト等との差別化を図り、「リアルの良さ」「本物に触れる良さ」を大切に魅力ある学びの場の提供に期待したい。

主要施策2

令和5年度には「こども家庭庁」が発足し、「こども基本法」も施行される。その基本理念として、「養育は、家庭を基本として行われ、保護者が第一義的責任を有すること」「十分な支援と家庭での養育が困難なこどもへの養育環境を確保すること」「家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境を整備すること」等が示されている。本市においても家庭の教育力向上や啓発、家庭教育支援は喫緊の課題である。そのような中、「雲仙市家庭教育7か条」「ココロねっこ運動」「家庭の日」を核とした取組を継続されていることは大変有意義なことであり評価できる。家庭教育7か条の周知啓発に向けた市報の「ぽかぽかフォトスナップ」連載は、市民の評判も良く、啓発効果の面からも大変素晴らしい取組だと感じる。他課との連携を密にして、より実効性のある取組へとつなげていきたい。

情報端末が生活の一部となる中、メディア依存の低年齢化、家庭内でのゲーム依存・ネット依存による問題等、メディア対策は家庭教育支援の中でも重要課題である。また、これは子どもたちのみならずその親である大人の問題でもある。健康被害、偏った情報による人間関係のトラブル、個人情報の流出、AIの悪用等も頻発する現代社会において、様々な機会を通じて「メディア安全指導」を実施され、PTAと協働した「統一ルールリーフレット」の配布を実施し啓発をされていることは大変評価される場所である。メディア対策には、次々に新しい課題が生まれている。時宜を得た適切な支援に努めていただきたい。

ワークショップ型の人権講演会による人権意識の高揚は大変有意義であるとする。様々な媒体や場面での差別的発言や人権侵害が問題となっている時代において、お互いを認め合う人権意識の啓発は大変重要である。「いじめ」「障がい者」に関わるもの以外にも「こども基本法」「ジェンダーフリー※4」等の課題に対して、映像や漫画、参加型の講座等わかりやすく親しみやすい形での人権啓発が必要であるとする。

主要施策3

学習環境の確保、教育格差の解消に向けて社会教育施設にWi-Fi環境が整えられ、また、公共施設等総合管理計画個別施設計画に基づき計画的な改修がなされており、情報機器の活用及び学校施設や社会教育施設が災害時の避難場所として活用される意味からも大変評価される場所である。

重点目標3「歴史を守りながら、芸術・文化の香りが漂うまちづくりを推進します」について

主要施策1

「誇りあるふるさとづくり」の観点から、指定文化財の保存・活用、各種保存会や郷土芸能団体への支援を継続し歴史文化の継承に努めておられることは大変評価される場所である。郷土史研究を含め関係者の高齢化が心配される場所であり、郷土の歴史・文化の魅力を漫画や動画等、分かりやすいメディアを通して若い世代に発信していくような工夫が必要であるとする。旧鍋島邸に代表される修理修景事業や埋蔵文化財の保存など各種事業の成果や無形文化財の映像保存等デジタル化を視野に入れ、更に、市民にどのような形で発信し「ふるさとの誇り」として市民に啓発・定着させていくのか、学校教育・観光部門との連携等、今後に大いに期待したい。

主要施策 2

地理的な条件から文化芸術に直接触れ合う機会が少ない本市の子どもたちや移動手段が限られる市民にとって文化芸術体験事業や積極的なアウトリーチ※5事業を数多く開催されていることは、心の豊かさや生活の充実の観点から大変意義あることである。会場地区以外の地区からの参加について更なる工夫が必要になると考える。

重点目標 4「運動やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します」について

主要施策 1

軽スポーツ団体への支援や軽スポーツ教室の開催、レクリエーションやスポーツ教室の開催などは、運動やスポーツに親しむきっかけ作りとして大変有意義な取組であると考えます。健康寿命に対する関心が高まっている今、運動の日常化に向けて安心して運動ができる環境整備や機会の創出と共に、スマホアプリに代表されるような「ゲーミフィケーション※6」の要素を取り入れた日常的な運動を可視化できる市独自の「〇〇運動」の提案等、柔軟な取組に期待したい。

市スポーツ協会への運営支援は市民参加型の大会や体験教室等の積極的な開催につながり、スポーツ人口の増加に寄与している。引き続き活動支援に努めていただきたい。また、少子化に伴う中学校部活動や小学校クラブの構成員不足が加速する中、教職員の働き方改革の視点からも部活動の地域移行に関する協議・準備が喫緊の課題であると考えます。

主要施策 2

社会体育施設の維持管理について、定期的な安全点検の実施は大変重要であると考えます。安全管理に関する利用者からの声を吸いあげるシステムの構築等、更に工夫した安全管理に努めていただきたい。Web 予約システムについては導入後の市民の声を吸い上げ、利便性の観点から改善に努めていただきたい。

小浜体育館がスポーツツーリズム推進の中核として利活用されていることは、大変評価されることである。市民が支えるスポーツ環境整備に向けて、今後、観光局や広報、地域メディア等関係団体との連携を更に密にし、より魅力のある事業としていただきたい。

「第２期雲仙市教育振興基本計画」による２年目の取組において、引き続いたコロナ禍の中、実現可能性を探りながら工夫し、目標達成に向けて真摯に取り組まれてきた雲仙市教育委員会に敬意を表するとともに、なお一層の発展を祈念し、「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書（令和４年度事業分）」に対する私の所見の報告といたします。

令和５年７月１１日

床 井 俊 介

【用語の説明】

※１ **DX（デジタルトランスフォーメーション）**

デジタル技術を用いた社会変革

※２ **ウェルビーイング**

心身ともに満たされた状態

※３ **ローカルブレイクアウト**

インターネット通信において、特定の拠点に集約して接続する方式ではなく、各拠点から分散型の接続形態をとること

※４ **ジェンダーフリー**

社会的・文化的な性差にとらわれず、誰もが平等で自由に行動できること

※５ **アウトリーチ**

公的機関などが行う地域への出張サービス

※６ **ゲーミフィケーション**

ゲーム的要素をゲーム以外の分野に組み込むこと、ゲーム化

雲仙市教育委員会

〒854-0492

長崎県雲仙市千々石町戊582番地

TEL 0957-37-3113

FAX 0957-37-3112